

東京工業大学 環境・社会理工学院は、12月18日、大岡山キャンパスにおいて東工大の戦略分野 SSI に関するワークショップを対面で開催しました。

"SSI-Sustainable Social Infrastructure"は、人生100年時代の安全・安心で一人ひとりの幸せを支える、次世代の社会インフラ構築を目指した東工大の戦略分野です。環境・社会理工学院は SSI の推進のために、若手研究者からなる SSI ワーキンググループを立ち上げました。今回のワークショップは SSI ワーキンググループの活動の一環であり、企業の変革の経験を学び、大学の研究の方向性について議論しました。東工大の教職員、学生に加え、学外から企業、研究者が参加しました（司会進行：環境・社会理工学院 清原康代）。

開会に当たり、ワーキンググループのリーダーを務める千々和伸浩准教授が、活動を開始した SSI ワーキンググループの紹介と本ワークショップの狙いについて述べました。

最初に、前田建設工業株式会社 執行役員 ICI 総合センター長の岩坂照之氏が、“建設業の新たな価値創造に向けた変革”と題して講演を行い、建設会社の変革をリードしてきた経験について話しました。

CSV 経営のもと、コンセッション事業、ICI 総合センター設立、インフロニア・ホールディングス株式会社設立と次々に新たな事業に取り組んできたことを紹介しました。また、建設業と会社のファン獲得を目的に、2003年に開始されたファンタジー営業部（社員発で始まったホームページ企画の名称）のユニークな活動を紹介しました。さらに、自らが率いる ICI 総合センターの中長期ビジョンで示された3つの未来、①一人ひとりが、地球と地域とインフラの課題を常に認識している未来、②利用者が様々なメニューでインフラ運営に参加できる未来、③メニューで獲得したデータ等によりインフラと地域と地球が最適化される未来、について述べました。次世代の社会インフラを考える上で、示唆に富んだメッセージでした。



企業の変革について講演する岩坂執行役員 ICI 総合センター長

パネルディスカッションでは、千々和伸浩准教授がモデレーターを務め、大学の研究はどこを目指すのか、何をすべきか、をテーマに議論しました。東工大オープンイノベーション機構の明神秀幸主任 URA が、オープンイノベーション機構が進める協働研究拠点について話題提供をしました。東工大の協働研究拠点は、現在 20 拠点あり、若手教員にとって協働研究拠点は企業との産学連携を学ぶ道場でもあることから、気軽に相談して欲しいとのメッセージがありました。

環境・社会理工学院 佐々木栄一教授は、SSI の実現に向けた産学官連携による研究の取り組みについて話題提供をしました。社会インフラに係る大型の産学連携である共同研究講座の活動を紹介し、大学の役割は、未来の子供たちに構造物・技術のよいものを引き継ぐこと、そのために、産学官と連携しながら、社会課題を踏まえ、イノベーションを生み出し貢献することであると述べました。



協働研究拠点を紹介する明神主任 URA



共同研究講座の活動を紹介する佐々木教授

続いて、岩坂照之氏も交え、ディスカッションを行いました。まず、大学研究者にとって、社会課題を他人事ではなく、我が事とすること、「社会課題の我が事化」が重要であることが指摘されました。社会課題を我が事化するためのヒントとして、自分とは違う業界の課題について考える癖をつける、自分でできる範囲だけで研究するのではなく、その分野の楽しさを周りの人に共感してもらう、といった意見が述べられました。

大学の研究が目指すべき方向については、多様な視点からの議論がありました。大学は社会的ニーズを踏まえ、基礎的な技術を追求するとともに、その研究分野の魅力を伝える必要がある、企業の面的なニーズに応え、新たなブレークスルーを実現するためには、学内外での仲間づくりが重要、などの意見がありました。また、大学は専門分野のシーズを創ることに加え、社会のルールチェンジのリーダーシップを発揮して欲しいという意見が述べられました。



パネルディスカッションの登壇者



モデレーターを務めた千々和准教授

ワークショップの最後に、環境・社会理工学院の高田潤一学院長が総括をしました。大学研究者が研究を進める上で、「社会課題の我が事化」が重要であること、研究と社会課題の関係性や SSI のあり方について、引き続き議論を続けたいと述べ、ワークショップは幕を閉じました。

今回のワークショップでの議論を踏まえ、SSI ワーキンググループは、産官学との協働や国際的な連携も視野に入れ、社会への実践的な貢献を目指し活動を進めていきます。



総括をする高田学院長

<https://www.ssi.ens.titech.ac.jp/>

<https://www.titech.ac.jp/about/organization/schools/organization06>

◇参考

- ・ CSV 共有価値の創造 (creating shared value : CSV) とは、企業による経済利益活動と社会的価値の創出 (= 社会課題の解決) を両立させること、およびそのための経営戦略のフレームワーク。
- ・ 前田建設ファンタジー営業部 <https://www.maeda.co.jp/fantasy/>
- ・ 協働研究拠点 <https://www.oi-p.titech.ac.jp/company/cluster/>
- ・ 共同研究講座 <https://www.ori.titech.ac.jp/sangaku/l-research-contract/collaborative-r-programs/>

◇お問い合わせ先

環境・社会理工学院 URA 米山晋

Email ssi@ori.titech.ac.jp